

JUNIOR

PASSPORT

シニア・パスポート

# 版画家 レンブラント

挑戦、継承、インパクト

へようこそ

レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン

(1606-1669年、オランダ) 商業がさかんなオランダの都市アムステルダムで活動したアーティストで、20代の頃から人物を描く画家として活動しました。油絵を描きながら版画づくりにも取り組み、63歳で亡くなるまでたくさんの作品をつくっています。特にエッチングという方法でさまざまな表現を試したことでも知られ、光と影の表現の豊かさなどは後の時代のアーティストたちからも注目を集めました。



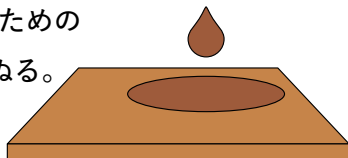
レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン 《書斎の学者（ファウスト）》1652年頃、国立西洋美術館

# エッチングって？

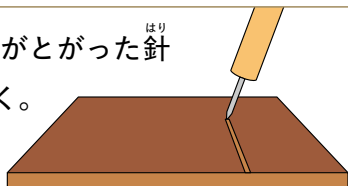
金属の板と薬品を材料につかった版画のつくり方です。

金属がとけてミゾのようになった部分にインクをつめて  
刷る凹版と呼ばれる方法のひとつです。

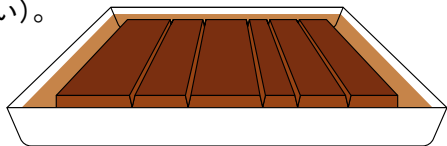
- ① 金属の板を保護するための  
画材(グラウンド)をぬる。



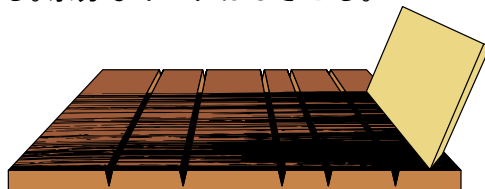
- ② ①に描きたい絵を先がとがった針  
(ニードル)などで描く。



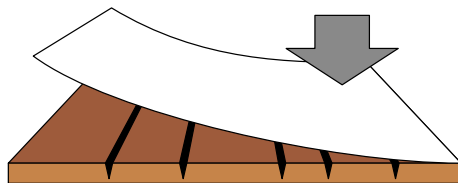
- ③ 金属をとかす薬品(腐蝕液)にひたすと、②の部分  
がとけてミゾになる(グラウンドで保護されている  
部分はとけない)。



- ④ グラウンドと腐蝕液を落とし、ミゾにインクを  
つめる。余分なインクはふきとる。



- ⑤ 紙をのせ、印刷機で上から強い力でおさえる。  
紙にインクがうつれば完成！



まるで鉛筆で描くように線が描けることが特徴で、また、  
線をたくさん重ねれば塗りつぶしたようにも見せられ  
ます。一度完成したと思ったものでも、作業をくり返せば、  
どんどん作品を変化させることができます。

展覧会会場内でも、家に帰ってからも、  
動画でつくり方の様子を見ることができます。



# 同じ作品？ 違う作品？

この2つの作品を見くらべてみましょう。  
似ているところ、ちがうところはどんなところですか？



レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン  
《版画商クレメント・デ・ヨンゲの肖像》

1651年 \*第1ステート レンブラント・ハウス美術館



レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン  
《版画商クレメント・デ・ヨンゲの肖像》

1651年 \*第5ステート レンブラント・ハウス美術館

実はこれら2つの版画、同じ金属の板でつくられたものです。

左は第1ステートと言い、最初に刷った作品。右は、左の作品でつけた板に版画の技法をくりかえし重ねて4回も変化させたもので、第5ステートと呼ばれます。

レンブラントは刷った作品を見ては考えをめぐらし、実験を重ねるように、線を足していきました。

レンブラントは作品に身近な人物をよく登場させました。

この作品のモデルであるクレメント・デ・ヨンゲは版画を売る仕事をしていて、レンブラントの作品をたくさん持っており、本人とも交流がありました。

# なにげない景色のなかにも



レンブラント：ハルメンスゾーン・ファン・レイン《三本の木》  
1643年、国立西洋美術館 エッチング、ドライポイント、ビュラン

まずは全体を見てみましょう。あなたはどんな印象をもちますか？

レンブラントは光と影の表現で注目されたアーティスト。一色のインクで刷られた版画でも、さまざまな明るさ・暗さが感じられます。

今度は少し近づいて観察してみましょう。

人や動物、建物などが見えるようです…探してみましょう。

釣りをしている人、絵を描いている人、ウマやヤギ、馬車などが登場します。

こまかなところを見ていくと、すべてが線でできていることがわかります。  
どんな線がありますか？

この展覧会で見られる版画の技法で、エッチングのほかによく登場するのは「ドライポイント」と「エングレーヴィング」。3つの技法はすべて金属の板をつかった凹版なので、同じ板に重ねていくことができます。

ドライポイントではニードルなどで板に直接キズをつけます。すると金属が削れたカスのようなものがミゾのまわりにできるので、そこにインクがたまってにじんだような線になります。エングレーヴィングも似た技法ですが、ビュランという特別な彫刻刀をつかってより深く板を彫るので、はっきりとした濃い線をつくりたいときに向いています。

# 後の時代への影響

A



レンブラント・ハルメンスゾーン・ファン・レイン  
《窓辺でエッチングを制作する自画像》1648年、レンブラント・ハウス美術館  
→ 約100年

B



ゲオルク・フリードリヒ・シュミット  
《窓の蜘蛛を伴う自画像》1758年、レンブラント・ハウス美術館  
→ 約250年

C



アンリ・マティス  
《版画を彫るアンリ・マティス》1900-1903年、国立西洋美術館

レンブラントの作品Aから、Bは約100年後、さらにCは約250年後、それぞれ別のアーティストがつくった版画です。

これらの作品はすべて、作者が作品をつくっている自分自身の様子を版画にしたもの。BとCをつくった2人のアーティストは、レンブラントに似せた自分の姿を作品にしたのです。そこにはどんな気持ちがあったのでしょうか。  
活躍した時代や場所がちがうにもかかわらず、複数のアーティストたちからの強い興味がレンブラントに寄せられていたことが想像できます。

Bをつくったゲオルク・フリードリヒ・シュミットはドイツ生まれで、レンブラントと同じく人物を描くことを得意としたアーティストです。  
Cをつくったアンリ・マティスは絵だけでなく、切り紙、彫刻、デザインにかかわることなども手がけ、ひろく活躍したフランスのアーティストです。

# 会場はすこし暗いので気をつけましょう

-  展示してあるものにさわらない
-  ぶつからないようにはしらない
-  多くの人があるのでさわがない
-  メモをしたいときはえんぴつで

## 〈版画家レンブラント 挑戦、継承、インパクト〉

会場=国立西洋美術館

会期=2026年7月7日(火)-9月23日(水・祝) 9:30-17:30(金・土曜日は20:00まで) \*入館は閉館30分前まで

休館日=月曜日、7月21日(火) \*ただし7月20日(月・祝)、8月10日(月)、9月21日(月・祝)は開館

主催=国立西洋美術館、レンブラント・ハウス美術館、朝日新聞社



The National Museum of Western Art



ジュニア・パスポート

執筆・編集=秋田美緒(国立西洋美術館) デザイン=栗原幸治(クリ・ラボ) 印刷=光村印刷株式会社 制作・発行=国立西洋美術館

©2026 国立西洋美術館

ジュニア・パスポートは、本展の鑑賞の手引きとして小学校高学年から中学生の利用を想定して編集されています。

名前

日付

年

月

日